

岡山県立図書館第3次中期サービス目標
さんさんサービスプラン 目標達成度評価シート＜平成30年度＞

＜5つの基本的性格＞

(1) 県民に開かれた図書館

基本指標	平成30年度実績
来館者数 平成24～26年度実績平均：1,059,517人	989,077人
個人貸出冊数 平成24～26年度実績平均：1,442,584冊	1,410,737冊
登録者数 平成26年度末累計：226,616人	270,803人
登録率（人口100人当たり）平成26年度末：11.8人	14.1人
来館者アンケート利用者満足度 平成26年度：93.3%	93.6%

○資料・情報の提供

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①来館者サービスの向上 豊富な蔵書を基盤に、企画展示、レファレンスサービス等を行い、来館者と資料を結ぶ積極的働きかけを行います。また、案内表示、サイン、検索端末の利用環境等の整備や、施設・設備の点検、修理に努めます。なお、利用者の自発的なマナー向上を、キャンペーン等を通して働きかけます。</p>	<p>[主な成果] ・自動貸出機が有効に活用されており、特に、カウンターの混雑緩和につながった。 ・平成25年度に開始したマナーアップキャンペーンを継続実施し、利用者マナー向上を図った。</p> <p>[課題] ・より多くの県民に来館され、快適に利用していただけるよう、利便性の向上と利用環境の改善に努める。</p>
<p>【指標】蔵書回転率（貸出冊数÷蔵書冊数）：最終年度に1.0以上</p>	<p>【指標】蔵書回転率：0.95（H29：0.99）</p>
<p>②ユニバーサルデザインの視点に立ったサービス 誰にでも使いやすい利用環境の改善を進めるとともに、障害者サービス等において県内公共図書館や関係機関との連携の一層の強化を進め、効果的なサービス展開を図ります。</p>	<p>[主な成果] ・高齢者が多く参加する講座の際に、高齢者向け紙芝居と大活字図書のコナーを紹介し、利用促進を図った。 ・当館所蔵資料に加え、録音図書などを提供するネットワーク「サピエ図書館」を活用した資料提供や対面朗読サービスを行った。</p> <p>[課題] ・誰にでも使いやすい利用環境の改善とともに、各種サービスを有効に活用いただけるよう周知に努める。</p>
<p>【指標】障害者向け資料貸出冊数：毎年度6,000冊以上</p>	<p>【指標】障害者向け資料貸出冊数：5,427冊（H29：5,592冊）</p>

<p>③非来館型サービスの向上 全県域へのサービス提供の拡大のため、県内公共図書館等の協力を得ながら、非来館型サービスを充実します。遠隔地利用の利便性の周知を行い、利用の拡大を図るとともに、利用者登録が全県域に拡大する好循環へと結び付けます。</p>	<p>[主な成果] ・当館資料の他館受渡冊数が74,649件（H29：72,889件）と高い水準を維持し、引き続き非来館者の利便性向上に寄与している。 ・県内公共図書館の協力を得て、平成30年度は、新たに6施設が加わり、26市町村の55施設で県立図書館の利用者登録の受け付けが可能となった。</p> <p>[課題] ・他館受渡しは、他館の協力が不可欠であるため、他の取組とも併せ、Win-Winの関係を構築・維持していくことが重要である。</p>
<p>[指標] インターネット予約貸出冊数：毎年度個人貸出冊数の12%以上</p>	<p>[指標] インターネット予約貸出冊数：13.0%（H29：12.5%）</p>

○県民参加による図書館づくり

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>④公聴広報活動の推進 公聴活動については、既存の取組のほか、インターネットによるアンケートや県内公共図書館でのアンケート等を通して、非来館者や未利用者を含めたニーズを幅広くつかむように努めます。広報活動については、既存の取組のほか、県内公共図書館、博物館、美術館等の行事に合わせた利用広報や、関係機関への案内送付を行い、利用拡大を図ります。なお、有料施設について、県民の生涯学習活動に活用してもらえよう、広報による利用拡大を図ります。</p>	<p>[主な成果] ・県立博物館・県立記録資料館の企画展示に合わせた展示を行うとともに、公民館や市内小中学校に案内を送付して、利用拡大を図った。 ・SNS（facebook、twitter）を活用した情報発信に努めた。 ・バックヤードツアーのコース内で有料貸出施設を紹介し、利用拡大に努めた。</p> <p>[課題] ・非来館者や未利用者のニーズをつかむための具体的な方策について研究を進める必要がある。</p>
<p>⑤図書館の魅力を伝えるイベントの開催 図書館の魅力を伝え、資料・情報の提供につながるイベントを、様々な主体とも連携し実施します。</p>	<p>[主な成果] 「県立図書館フェスタ」や、主題別6部門ごとに企画する「とことん活用講座」等主催事業のほか、次のようなイベントを実施した。 ・放送大学岡山学習センター、県環境保健センターとの連携による公開講座 ・おかやまインキュベータ協議会等と連携によるビジネス支援イベント ・当館制作の映像資料の上映会</p> <p>[課題] ・普段図書館を利用しない層の掘り起しにつながるイベントや連携主体について引き続き情報収集、働きかけに努める。</p>
<p>⑥県民との協働の推進 ボランティアの受入れと、研修による資質向上を図ります。また、読書グループや読書ボランティアの調査結果等を基に、地域における読書ボランティアの養成に際して、講師紹介や助言等による支援を行います。</p>	<p>[主な成果] ・当館の新規登録ボランティアを対象に養成講座を実施したほか、他館も含め広く図書館ボランティアを対象としてスキルアップ講座を開催するとともに、他館からの要請を受け講師の紹介や助言を行った。 ・公益社団法人読書推進協議会が調査主体である「全国読書グループ調査」（5年ごと）を実施し、当館でもとりまとめ結果を公表した。</p>

<p>⑦郷土資料の寄贈受入及び郷土情報募集事業の推進</p> <p>県民の参加意識を高めることによって、取組を積極的に進め、価値ある郷土資料・情報の提供につなげます。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民等から4,000点を超える郷土資料の寄贈を受け入れた。また、郷土情報募集事業では、動画、校歌など、県民や学校から提供のあったコンテンツ18点を登録し、ホームページ上で公開した。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村や県民の協力も得ながら、郷土資料の網羅的収集を継続していくことが重要である。
--	--

評価

<p>来館者数が8年ぶりに100万人を下回ったが、個人貸出冊数7年連続140万冊突破と好調を維持し、利用者アンケートでも前年度を上回る高い満足度を得ることができた。このほか、蔵書回転率及び障害者向け資料貸出冊数は目標を下回ったものの、インターネット予約貸出冊数は目標を上回る高水準であった。</p>	<p style="text-align: center;">3</p> <p><達成レベル></p> <p>5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>
---	--

(2) 県域の中核となる図書館

基本指標	平成30年度実績
<p>協力レファレンス件数 平成24～26年度実績平均： 1,747件</p>	<p>908件</p>

○県内公共図書館の振興

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①県内公共図書館への支援の推進</p> <p>自治体の財政難に伴う図書館資料費の削減が続く中で、既存の支援事業に引き続き取り組みます。このうち、対応する目標設定及び取り組みとして、「晴れの国おかやま生き活きプラン」に掲げられている指標「県民が公立図書館から借りた本の数」の目標達成のための統一イベントやキャンペーンを実施します。また、日常的な図書館運営に関する様々な相談に対応し、情報交換できる環境を整備します。その一環として、全自治体への巡回相談事業を継続して実施します。図書館のない自治体へは、図書館設置の働きかけを行うとともに、求めに応じて助言を行います。既設置自治体へは、地区館の設置等により、サービスの空白地帯の解消が進むように助言します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用マナーに関するトラブルが問題となっていることから、県内図書館に呼びかけ、「マナーアップキャンペーン」を統一イベントとして実施した。 ・館長、担当者を対象とした会議や研修会、図書館協力ニュースの発行、巡回相談等を通して、情報交換・提供、助言を行った。 ・平成30年度は、真庭市において新館がオープンし、近隣市町の住民も含め、地域における図書館サービスの向上が図られた。 ・平成30年7月豪雨（西日本豪雨）では、県内公共図書館等に被害状況の調査を行うとともに、特に被害の大きかった倉敷市立真備図書館へ支援を行った。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、未設置自治体への設置、既設置自治体への地区館設置など、図書館サービス空白地帯の解消に向け、情報提供や助言等必要な支援を行う。 ・倉敷市立真備図書館の2021年の復旧に向け、必要な支援を引き続き行う。
<p>【指標】 県内公共図書館への協力貸出冊数：毎年度4万冊以上</p> <p>【指標】 県内公立図書館の県民1人当たり個人貸出冊数：最終年度に7.0冊以上</p>	<p>【指標】 県内公共図書館への協力貸出冊数：36,753冊（H29：37,720冊）</p> <p>【指標】 県内公立図書館の県民1人当たり個人貸出冊数：6.55冊（H29：6.70冊）</p>

<p>②図書館に関する調査とその公表の推進 定例の取組を継続するとともに、ニーズや重要性を見極めたきめ細かい調査を行い公表します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口規模別に県内公共図書館と全国の図書館のサービス目標を比較した「自治体別指標」を取りまとめ、各館の計画策定や予算要求等に活用された。 ・指定管理者制度、図書の購入装備、ビジネス支援など、問合せの多い事例について調査を行い、結果を提供した。
---	---

○図書館職員の力量の向上

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>③図書館職員研修の充実 研修についてはより実践的な内容とし、研修実施後、内容を各館に情報提供し情報共有できるよう配慮します。また、講師派遣制度の充実を図ります。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員研修では、児童サービスやパスファインダーといった参加者ニーズを踏まえたテーマを扱い、概ね高い満足度を得ることができた。また、要請を受け、7回講師を派遣した。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内図書館では、開館日数の増加や時間延長、非正規雇用が進む中、職員のスキルの維持・向上に必要な研修機会の確保が課題である。
<p>④岡山県立図書館職員の専門性の向上 県域の公共図書館の支援を行うという広い視野に立って取り組み、成果は講師派遣制度に活用します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つのグループを組織し、テーマに沿って研究を進めた。研究で得られた成果は、県内公共図書館等への講師派遣事業に生かすことができた。

○図書館ネットワークの拡充・強化

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>⑤県内図書館等とのネットワークの推進 県内公共図書館等と協力しながら進めるとともに、大学図書館等との間で、専門的な資料の相互貸借等を行い、連携の拡大を図ります。また、県域の広域ネットワークの構築、運営の支援に努めます。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内公共図書館等を接続する横断検索システムによる蔵書検索件数が110万件（H29：約111万件）を超え、多くの方に利用されている。 ・県内公共図書館等30施設に週2回、大学図書館、学校図書館等119施設に週1回の資料搬送を行った。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政状況の中、物流コストの高騰が大きな課題となっており、搬送システムの維持のため、制度の見直しも含めた在り方の検討が必要である。 ・横断検索システムへの接続ができていない大学図書館に対し、説明や働きかけを行い、ネットワークの拡充を図る必要がある。
<p>⑥県外図書館等とのネットワークの推進 新しい技術動向に対応しつつ、全国的ネットワークの地域拠点機能を果たし、県外図書館との協力関係を維持します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館等に関する最新技術が一堂に会する場である「図書館総合展」に職員を派遣し、システム更新に向けた検討の参考とするなど、当館の運営に生かすことができた。 ・国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業に新たに208件の事例を登録（累計3,025件）し、平成20年度以降10年連続で国立国会図書館長から感謝状を受けた。

評価

<p>協力レファレンス件数は、2,000件以上を記録した平成24・25年度の水準に及ばず、1,000件を下回った。また、県内公共図書館への協力貸出冊数及び県内公共図書館の県民1人当たり個人貸出冊数はいずれもわずかに目標を下回った。</p>	<p>3</p>
	<p><達成レベル> 5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>

(3) 調査・研究センターとしての図書館

基本指標	平成30年度実績
レファレンス件数 平成24～26年度実績平均：69,248件	85,821件

○主題別6部門制による調査・研究支援

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①主題別6部門の連携による調査・研究支援の充実 高度なレファレンスに対応できる職員を配置して、各部門の専門性を維持するとともに、関係専門機関とも連携しながら、利用者の調査・研究を支援します。交通文化資料については、魅力ある企画展示を行ったり、二次資料を工夫したりして、利用の拡大を図ります。</p>	<p>[主な成果] ・専任職員を配置した主題別部門制による資料提供により、利用者の目的達成度93.4%(H29:94.5%)、職員対応満足度98.2%(H29:97.2%)という高い水準を維持することができた。 ・各部門において、年間を通じ、関係機関の協力も得ながら、利用者の興味・関心を引く展示等を行った。</p>
<p>②レファレンスの充実 主題別6部門制に基づく専門性の高いレファレンスを行い、レファレンスデータベースへ登録するほか、レファレンスツールとしてのブックリスト、調べ方案内等の作成・更新に取り組み、館内のみならずホームページ上でも提供します。</p>	<p>[主な成果] ・レファレンスデータベースに188件を登録した。 ・各部門のテーマ展示や関係機関との連携展示に合わせて、ブックリストを作成し、ホームページ上で公開した。</p>
<p>【指標】レファレンスデータベース登録数：毎年度180件以上</p>	<p>【指標】レファレンスデータベース登録数：188件(H29:180件)</p>

○課題解決支援機能の充実

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>③ビジネス支援の充実 創業・起業を考える人、キャリアアップを目指す人、就職を考える若者等に、豊富な蔵書を基盤とした支援を継続します。また、県内中小企業の業務改善を支援します。以上の取組を通して、関係機関との連携を図りながら、「晴れの国おかやま生き生きプラン」・重点戦略Ⅱ・地域を支える産業の振興に寄与します。</p>	<p>[主な成果] ・関係機関と連携し、創業&フォローアップセミナー、プレインキュベーションセミナー、創業相談会(県産業振興財団)、高校生対象のビジネスプラン・グランプリ[ビジネスアイデア創出編・ビジネスプラン作成編](日本政策金融公庫)を開催した。</p>
<p>【指標】連携セミナー受講者のうち創業した人数：毎年度10人以上</p>	<p>【指標】連携セミナー受講者のうち創業した人数：2人(H29:22人)</p>

<p>④身近な課題解決支援の充実 ニーズを踏まえた課題解決支援を行い、図書館を身近な存在として認知してもらえるよう取り組みます。</p>	<p>[主な成果] ・利用者アンケートによると、「資料の量や種類」、「職員の対応」といった項目で肯定的な回答が9割を超えており、高い水準を維持することができた。</p>
---	---

評価

<p>レファレンス件数は、平成29年度に続き80,000件を超え、利用者アンケートの満足度とともに高い評価を得ることができた。また、レファレンスデータベース登録数も目標を達成したが、連携セミナー受講者のうち創業した人数については、平成30年度から岡山市企業家塾との連携がなくなったため大幅に目標を下回っている。</p>	<p style="text-align: center;">2</p> <p><達成レベル> 5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>
---	---

(4) デジタルネットワークに対応する図書館

○デジタル岡山大百科の充実

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①郷土情報ネットワークの充実と利用促進 郷土情報募集事業や関係機関との連携強化等を通して、価値ある郷土情報の蓄積や、デジタル絵本のような特色あるコンテンツ形成に努めるとともに、活用方法を広報します。デジタル化においてはメディア工房支援ボランティアと連携します。</p>	<p>[主な成果] ・「岡山後楽園光景」など、当館所蔵の郷土資料をデジタル化した魅力的なコンテンツを25点登録した。</p>
<p>②レファレンスデータベースの充実 県内公共図書館等と連携しレファレンス事例の充実を図るとともに、図書館の代表的なサービス機能であるレファレンスを具体的に提示していきます。</p>	<p>[主な成果] ・レファレンスデータベースに188件を登録した。</p>
<p>【指標】レファレンスデータベース登録数：毎年度180件以上【再掲】</p>	<p>【指標】レファレンスデータベース登録数：188件（H29：180件）</p>

○デジタルネットワークの活用

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>③外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用促進 直接来館することによってはじめて利用できる当該サービスを周知し、利用促進を図ります。</p>	<p>[主な成果] ・（公財）放送番組センターとの連携により、サテライト・ライブラリー事業「OKAYAMA情報チャンネル」のサービスを引き続き実施した。 ・市場情報評価ナビ「MieNa」等、2種類のオンライン・データベースサービスを開始し、活用講座を開催した。</p>
<p>【指標】外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数：毎年度900人以上</p>	<p>【指標】外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数：1,405人（H29：1,318人）</p>

<p>④サピエ図書館等の活用の推進 取組を一層進めるとともに、県内公共図書館へノウハウを提供しながら、全県域での障害者サービスを充実させます。</p>	<p>[主な成果] <ul style="list-style-type: none"> 録音図書などを提供するネットワーク「サピエ図書館」に加え、国立国会図書館の視覚障害者等用データの送信を受けることができる施設として承認されたことにより、サピエ図書館のサービス停止時でも国会図書館のデイジー図書の提供が可能となり、利用者の利便性の向上を図ることができた。 障害者サービスに関し、県内公共図書館、関係機関等の視察を受け入れ、助言や情報提供を行った。 </p>
<p>【指標】サピエ図書館データのダウンロード点数：毎年度 5,000点以上</p>	<p>【指標】サピエ図書館データのダウンロード点数：4,759点(H29:4,855点)</p>
<p>⑤電子書籍サービスの導入等の検討 電子書籍サービスの導入については、公共図書館向けコンテンツ数の不足、費用対効果の低さ等、外部環境が熟していないため実現していませんが、環境の変化を注意深く見極めつつ、引き続き検討していきます。なお、デジタルネットワークを活用した外部の情報メディアの導入を図っていく中で、アクセスコーナーやAVコーナーについて、今後の望ましい在り方を検討します。</p>	<p>[主な成果] <ul style="list-style-type: none"> 前年度にDVD、ブルーレイ兼用デッキへの変更などリニューアルを行ったAVコーナーについて、活用を図った。 <p>[課題] <ul style="list-style-type: none"> 電子書籍サービスの導入については、環境の変化を注意深く見極めつつ、引き続き検討していく必要がある。 アクセスコーナーについては、調査研究と関係のない動画の視聴など利用者のルール・マナー違反への対応に苦慮しており、運用の見直しが必要である。 </p> </p>

評価

<p>サピエ図書館データのダウンロード点数については目標にわずかに及ばなかったものの、レファレンスデータベース登録数、外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数は目標を上回った。</p>	<p style="text-align: center;">4</p> <p><達成レベル> 5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>
--	--

(5) 資料保存センターとしての図書館

基本指標	平成30年度実績
<p>新刊図書の購入冊数 平成24～26年度実績平均（1億2千万円に割り戻し）：31,000冊</p>	<p style="text-align: center;">30,840冊</p>

○資料の収集

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①新刊図書の効率的な収集 県民及び県内図書館からの高度化、多様化する資料要求に応えられるように、新刊図書の効果的な収集と、効率的な予算執行に努めます。</p>	<p>[主な成果] <ul style="list-style-type: none"> 資料整備費が前年度から2000万円減額された影響は大きく、資料収集基準に基づき、効率的な予算執行に努めたが、平成30年度の新刊図書収集率は48.4%で、平成29年度の52.7%を下回った。 <p>[課題] <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、利用者ニーズを踏まえながら、市町村立図書館での購入が難しい資料など、県立図書館として所蔵すべき資料の網羅的収集に努める。 </p> </p>

<p>②郷土資料の収集の促進 郷土資料の収集については、量的充実と合わせ、未所蔵資料の遡及収集に全力で取り組みます。購入や寄贈のほかに、資料の必要性に応じて、他館所蔵資料の複製やデジタル媒体の印刷製本等の柔軟な方法で収集します。</p>	<p>[主な成果] ・現在発行されている郷土資料については、県内市町村に協力を求めるとともに、雑誌や新聞記事等の出版情報を基に積極的に収集した。 ・古書については、古書目録や古本市、インターネット等の情報を得るとともに、実際に店頭に出向き、実物を確認するなどして効果的な選定に努めた。 ・行政資料を中心に、デジタルデータでしか入手できないものについては、プリントアウト・製本して資料化した。</p> <p>[課題] ・郷土資料の網羅的収集を継続していくことが必要である。</p>
<p>[指標] 郷土資料蔵書冊数：最終年度に15万冊以上</p>	<p>[指標] 郷土資料蔵書冊数：141,198冊 (H29:135,669冊)</p>

○資料の保存

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>③地域の資料保存センター機能の充実 地域の資料保存センターとしての機能を果たすため、受入資料については原則として永年保存します。また、県内公共図書館等の移管資料の受入れを行うとともに、寄贈資料の円滑な受入、保存に努めます。</p>	<p>[主な成果] ・寄贈・移管資料として、8,528冊（うち市町村立図書館等910冊）を受け入れた。</p> <p>[課題] ・引き続き、寄贈・移管された資料を効率的かつ迅速に受け入れるため、書庫や保管スペースを確保しておく必要がある。</p>
<p>④長期保存対策の推進 長期保存の優先度合いの高い郷土資料（a.貴重書の絵図、地図 b.県の行政資料 c.和装本のうち岡山との関係が深いもの）のデジタル化を、メディア工房支援ボランティアと連携しながら行うとともに、郷土情報ネットワークへのデジタルアーカイブを行い、保存と利用を両立させるよう努めます。</p>	<p>[主な成果] ・長期保存の優先度合いの高い資料について、1枚ものの絵図や古地図等を中心にデジタル化するとともに、デジタル岡山大百科へ登録し、利用に供した。</p> <p>[課題] ・貴重な資料の長期保存と利用促進の観点から、引き続き、計画的にデジタル化を進める必要がある。</p>
<p>[指標] デジタル化した郷土資料点数：毎年度10点以上</p>	<p>[指標] デジタル化した郷土資料点数：25点 (H29:25点)</p>

評価

<p>新刊図書は購入冊数・率は、効率的な予算執行に努めたが、30,840冊・48.4%となり、前年度を下回った。また、郷土資料蔵書冊数が前年度から約5,500冊増加し伸びが見られるとともに、デジタル化した郷土資料点数は目標を大きく上回った。</p>	<p style="text-align: center;">4</p> <p><達成レベル> 5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>
--	---

<重点プログラム>

(1) 子ども読書プログラム

○子ども読書活動推進センター機能の充実

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①子どもの読書に関する調査・研究の支援の推進 全点収集児童図書は、巡回展示や特別貸出し等によって、活用の促進を図ります。また、関係者や関係機関に対して、サービスの実態や取組等に関する様々な情報を、ホームページ等で提供します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の購入を継続し、充実した児童図書研究環境を提供することができた。 ・笠岡市及び里庄町において、ヨムヨム巡回展示を開催し、児童図書の展示を行った。また、笠岡市では読み聞かせ講座も行った。 ・県内の「子ども読書の日」に関連する行事予定を取りまとめ、ホームページ上で公開した。 ・児童図書研究室内で中央教科書センター丸の内分館を運営し、通年、現行教科書の展示を行った。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、子ども読書活動推進センター機能の一層の充実を図る必要がある。
<p>②子どもの読書に関わる研修・普及啓発活動の推進 研修の形態は、講義のみならず、事例発表、連絡会、交流会等の多様な形態を取り、その内容を実践的なものとします。また、読書ボランティア団体等の取組を引き続き支援します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村立図書館職員、学校図書館職員及びボランティアを対象として、タイムリーかつ参加者ニーズを踏まえたテーマにより各種研修会を開催するとともに、公共図書館等主催の研修講座に講師を派遣するなど、図書館関係者の資質向上に取り組んだ。 ・岡山県子どもの読書活動推進連絡会を開催し、図書館、学校、ボランティア等関係者が連携・協働の下、種々の取組を推進する機会とした。
<p>③子どもへのサービスの充実と郷土岡山を大切に作る心の育成 資料の充実を図るとともに、読み聞かせ、ストーリーテリング等の行事を、児童サービス支援ボランティアと連携しながら行います。保護者の読書相談にも対応します。中高生の利用促進については、ティーンズコーナーの運営や、中高生に必要とされるブックリスト、調べ案内の作成、提供等を通して取り組むとともに、中学校、高等学校の学校図書館と連携しながら進めていきます。また、対面朗読室を活用した朗読サービスや、録音図書の提供等によって特別な支援を必要とする子どもの読書活動を支援します。さらに、子どもが郷土岡山を大切に思い、世界に視野を広げ、よりよい社会づくりに参画する心や態度を育成するための資料を企画展示する等のサービスを充実させます。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティーンズコーナーにおいて、高等学校等21校の参加による企画展示や「でーれーBOOKS」等学校図書館活動の取組を紹介するとともに、寄せられたメッセージをホームページ上で公開した。 ・おはなし会参加者を対象に、平成28年7月に開始した「岡山クイズ」を引き続き実施した。
<p>【指標】 読み聞かせ参加人数：最終年度に3,000人以上</p>	<p>【指標】 読み聞かせ参加人数：2,984人 (H29:3,036人)</p>

○学校図書館への支援

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>④学校図書館への支援の推進</p> <p>学校図書館への協力貸出しに取り組むほか、学校図書館横断検索システムによって、学校図書館間の資料の相互利用を進めます。また、学校図書館担当職員（学校司書・司書教諭）等を対象とした専門的な研修を開催するとともに、研修の必要性に応じて職員を派遣します。なお、搬送実施校以外の市町村立学校図書館等への支援については、最寄りの市町村立図書館への搬送等によって行います。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館への協力貸出し（当館所蔵資料の貸出し）、学校図書館支援用図書貸出し（学校セット貸出し）は、平成29年度を下回ったものの、引き続き活用された。 学校図書館横断検索システムは、計27校が接続している。 学校図書館職員を対象として、タイムリーかつ参加者ニーズを踏まえたテーマにより各種研修会を開催するとともに、要請を受け講師を派遣し、資質向上を図った。 23市町村173小・中学校・高等学校を対象に、自治体中央館を通じた資料搬送を試行的に実施した。
<p>【指標】 学校図書館への協力貸出冊数：最終年度に34,000冊以上</p>	<p>【指標】 学校図書館への協力貸出冊数：33,689冊（H29：35,605冊）</p>
<p>⑤学校図書館との協力体制の構築</p> <p>学校図書館と効果的に連携・協力できるよう、学校図書館協議会等との連携・協力を努めます。また、県内公共図書館と地域の学校図書館等とのネットワークの構築を支援します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館との連携・協力を図るため、岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会に参加し、助言等を行った。また、岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会司書部会に参加し、情報提供を行った。 巡回相談を通じて、地域の公共図書館と学校図書館等との間のネットワークの状況を把握するとともに、情報提供を行った。

評価

<p>新刊児童図書の全点収集など調査研究のための環境整備とともに、読み聞かせ等子どもへのサービスの充実、さらには、研修等市町村・学校等への支援に取り組んだ結果、読み聞かせ参加人数、学校図書館への協力貸出冊数ともに概ね目標水準であった。</p>	<p>3</p> <p><達成レベル> 5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>
---	--

（2）おかやま情報発信プログラム

○郷土資料のデジタル化による情報発信

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>①郷土資料の収集と利用の促進</p> <p>郷土資料の収集については、量的充実と合わせ、未所蔵資料の遡及収集に全力で取り組みます。収集方法については、購入や寄贈のほか、資料の必要性に応じて、他館所蔵資料の複製やデジタル媒体の印刷製本等の柔軟な方法で収集します（再掲）。さらに、記事索引等の二次資料作成や、人物、事象等に関する企画展示を通して利用を拡大し、岡山県に関する専門的な調査・研究を支援します。</p>	<p>[主な成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在発行されている郷土資料については、県内市町村に協力を求めるとともに、雑誌や新聞記事等の出版情報を基に積極的に収集した。 古書については、古書目録や古本市、インターネット等の情報を得るとともに、実際に店頭に出向き、実物を確認するなどして効果的な選定に努めた。 行政資料を中心に、デジタルデータでしか入手できないものについては、プリントアウト・製本して資料化した。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料の網羅的収集を継続していくことが重要である。
<p>【指標】 郷土資料蔵書冊数：最終年度に15万冊以上【再掲】</p>	<p>【指標】 郷土資料蔵書冊数：141,198冊（H29：135,669冊）</p>

<p>②郷土資料のデジタル化の推進 長期保存の優先度合いの高い郷土資料(a. 貴重書の絵図、地図 b. 県の行政資料 c. 和装本のうち岡山との関係が深いもの)のデジタル化を、メディア工房支援ボランティアと連携しながら行うとともに、郷土情報ネットワークへのデジタルアーカイブを行い、保存と利用を両立させるよう努めます(再掲)。県内にとどまらず広く情報発信することに努めます。</p>	<p>[主な成果] ・長期保存の優先度合いの高い資料について、1枚ものの絵図や古地図等を中心にデジタル化するとともに、デジタル岡山大百科へ登録し、利用に供した。</p> <p>[課題] ・貴重な資料の長期保存と利用促進の観点から、引き続き、計画的にデジタル化を進める必要がある。</p>
<p>【指標】 デジタル化した郷土資料点数：毎年度10点以上【再掲】 【指標】 郷土情報ネットワークへのアクセス数：毎年度20万件以上</p>	<p>【指標】 デジタル化した郷土資料点数：25点(H29：25点) 郷土情報ネットワークへのアクセス数：331,634件(H29：379,834件)</p>

○他機関との連携による情報発信

サービス目標と具体的取組	成果と課題
<p>③岡山県立図書館の魅力発信 岡山県立図書館についての理解が進むように、企画展示、テーマ別リストの提供、イベント等を通して、所蔵する資料の紹介を継続的に行います。また、デジタル化した貴重資料等を印刷物やインターネットサイト等で公開し活用できるようにするとともに、民間企業にも素材として提供できる機会を設けます。さらに、マスコットキャラクター「ヨムヨム」のしおりやブックカバー等を作成して広く配布します。ホームページ上では、バーチャルバックヤードツアーを行います。</p>	<p>[主な成果] ・各部門において、年間を通じて様々な企画展示を実施するとともに、県立図書館とことん活用講座や県立図書館フェスタ等のイベントを開催し、利用促進につなげた。 ・デジタル岡山大百科の充実を図り、県民や民間企業の利用に供した。 ・SNS (facebook、twitter) を活用した情報発信に努めた。 ・マスコットキャラクター「ヨムヨム」については、おはなし会への継続参加の記念品としたほか、各種イベントやマナーアップキャンペーン等啓発活動で積極的に活用し、利用促進につなげた。</p> <p>[課題] ・普段図書館を利用しない層の掘り起しにつながるイベントや連携主体について引き続き情報収集、働きかけに努める。</p>
<p>④他機関と連携した岡山県の魅力発信 他機関と連携して岡山県魅力を広く国内外に発信し、岡山県への愛着と誇りを醸成します。具体的には、岡山県と岡山商工会議所が実施する「晴れの国おかやま検定」に連携した展示等を行います。また、岡山カルチャーゾーン加盟各施設や岡山県観光連盟と連携したイベントを開催します。さらに、岡山県に関する観光パンフレットを収集し提供します。</p>	<p>[主な成果] ・岡山県に関する貴重な資料を有する県立博物館、県立記録資料館はもとより、県庁各課や出先機関等とも積極的に連携し、多種多様な展示等を行った。 ・おはなし会参加者を対象に、平成28年7月に開始した「岡山クイズ」を引き続き実施した。 ・岡山カルチャーゾーン連絡協議会加盟施設である県立博物館と連携し、同館の特別展・企画展に合わせた展示を行った。 ・郷土資料のうち観光パンフレット等について、県内市町村に協力を求め、積極的に収集した。</p>

評価

<p>郷土資料蔵書冊数が前年度から約5,500冊増加し伸びが見られるとともに、デジタル化した郷土資料点数は目標を大きく上回った。また、郷土情報ネットワークへのアクセス数は目標を大きく上回った。</p>	<p>5</p> <p><達成レベル> 5：目標を大きく上回る 4：目標を上回る 3：概ね目標水準 2：目標を下回る 1：目標を大きく下回る</p>
--	--

第3次中期サービス目標のサービス指標一覧

指標名		目標値 (a)	平成30年度実績 (b)	達成率 (b)/(a)	評価
県民に開かれた図書館	○来館者数	—	989,077人	—	3
	○個人貸出冊数	—	1,410,737冊	—	
	○登録者数	—	270,803人	—	
	○登録率(県人口比)	—	14.1人	—	
	○来館者アンケート利用者満足度	—	93.6%	—	
	①蔵書回転率(貸出冊数÷蔵書冊数)	最終年度に1.0以上	0.95	95.0%	
	②障害者向け資料貸出冊数(延べ資料数) ※障害者サービス限定の資料:デジター等に障害者を対象として録音(録画)された資料	毎年度6,000冊以上	5,427冊	90.5%	
③インターネット予約貸出比率	毎年度個人貸出冊数の12%以上	13.0%	108.3%		
県域の中核	○協力レファレンス件数	—	908件	—	3
	④県内公共図書館への協力貸出冊数	毎年度4万冊以上	36,753冊	91.9%	
	⑤県内公立図書館の県民1人当たり個人貸出冊数	最終年度に7.0冊以上	6.55冊	93.6%	
調査・研究センター	○レファレンス件数	—	85,821件	—	2
	⑥レファレンスデータベース登録数	毎年度180件以上	188件	104.4%	
	⑦連携セミナー受講者のうち創業した人数	毎年度10人以上	2人	20.0%	
デジタルネットワーク	⑧外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数	毎年度900人以上	1,405人	156.1%	4
	⑨サピエ図書館データのダウンロード点数	毎年度5,000点以上	4,759点	95.2%	
資料保存	○新刊図書の購入冊数	—	30,840冊	—	4
	⑩郷土資料蔵書冊数	最終年度に15万冊以上	141,198冊	94.1%	
	⑪デジタル化した郷土資料点数	毎年度10点以上	25点	250.0%	
子ども読書	⑫読み聞かせ参加人数(お話のへや)	最終年度に3,000人以上	2,984人	99.5%	3
	⑬学校図書館への協力貸出冊数	最終年度に34,000冊以上	33,689冊	99.1%	
おかやま情報	⑭郷土情報ネットワークのアクセス数	毎年度20万件以上	331,634件	165.8%	5

○基本指標(太字)は、絶えず取り組むべき基本事項と位置付け、数値指標は設定していない。

総合評価

<p>平成28年3月に策定した第3次中期サービス目標に基づき、3年目に当たる平成30年度は、様々な新たなサービス等に積極的に取り組むことで、基本指標である来館者数、個人貸出冊数ともに高い水準を保っているが、その他の指標の一部について目標を下回っているものがあるものの、多くの項目において一定の成果が認められる。</p> <p>今後とも成果・課題を踏まえ、創意工夫による積極的な取組により、サービス目標を着実に推進していく。</p>	3
	<p><達成レベル> 5: 目標を大きく上回る 4: 目標を上回る 3: 概ね目標水準 2: 目標を下回る 1: 目標を大きく下回る</p>